

7. 計画の目標値および見直しの評価基準

(1) 計画の目標値および見直しの評価基準

1) 計画の目標値

将来も社会動向や市民バスの利用実態の変化が予想されることから、利用状況の把握・検証をとおして計画の達成状況を把握し、柔軟に路線網等を見直していく必要があります。

本計画では、達成状況を把握するための評価指標および目標値は、以下のとおりとします。

表 7.1 計画の評価指標と目標値

指標の背景	評価指標	現状 (H27 年度)	目標値 (H33 年度)
高齢者にやさしく 利用しやすい バス交通	市民バスおよびデマ ンド交通の年間利用者数 【年間の1便あたりの 平均利用者数】	14.2 万人 【6.5 人】	16.0 万人 【7.3 人】

2) 見直しの評価基準

市民バス等の利用状況に応じ、効率的な運行が行われているか、運行経費の過度な増加がないかを定期的に確認した上で、柔軟に路線網を見直していく必要がありますが、見直しの検討を始める評価基準は以下のとおりとします。

各路線の見直しについては、年間の1便あたりの平均利用者数が4人/便を下回ると想定される場合は、利用実態を踏まえて検討を行います。

また、運行経費と運賃収入等の差額については、効率的な運行を行い、現状維持するものとします。(年間約7,500万円＝運行経費－運賃収入等)

バス全体の運行の見直しについては、運行経費と運賃収入等の差額が過度に増加すると見込まれる場合、検討を行います。